によつて更に積極的となつた。

即ち丸本運送店を別箇に創立せしめ、丸三の荷物を之に集中し、請負制である丸三従業員百餘名を失業若しくは半失業の狀態に陷れた。（一日の收入廿八錢の者も出來た）組合は之に對し種々交渉し二回讓歩して解決したるに、會社は益々追擊して來たのである。

〔會社の宣傳と實際〕（十二頁參照）

會社は『丸三從業員の不從順不勉强のため輻輳する貨物の取扱ひに間に合はぬ』ので、丸本運送店を創立したり（十二頁二行—三行）と云ふも、運送の實際は、小麥の搬入期に於いて最も多忙を極めるが、かゝる狀態は極めて一時的である。故にこの狀態を標準にして從業員を雇入るゝならば、他の閑散なる時期に於いて皆が半失業の有樣となるのである。從つて組合はこの繁忙期には、責任を以つて人夫を增員し（この爲組合は賃銀高き勞働者を人夫として使用するので一人一日當り五十錢は運送店より受くる賃銀より多く支拂ふ事となることを見越してさへも）必ず間に合せる事を協定し且之を實行した。**新設丸本運送店では二割强取扱ふのみ**（十三頁十一行）と云ふも、之に對しても眞に二割强の取扱ひには、組合も亦讓歩したるも、會社は之を無視し更に增加し來つたから問題となつたのである。**丸三問題は組合破壞の計畫に非ず**（十三頁八行—九行）と主張するも、六月下旬、柏町岩田屋料理店に於いて、並木工場課長、丸本店主染谷、丸三店主增田の三名が會合し、組合破壞を策したる事實、組合が二回も讓歩して解決を計りたるに、益々追窮し來たりたる事實は如何。

（八）罷業の根本的原因

それは次の如くである。

（1）會社の一貫せる組合破壞の精神

（イ）昔の如き搾取の增大を夢み

（ロ）勞働組合に對する封建的反感

（2）政友內閣の出現と、反動的助力の期待各地に於いてそれが實證された

（3）組合が統制亂れて實力なしと認識したること。從つてこれが破壞は極めて容易なりと信じたこと。會社側の有力者は、罷業は廿日乃至二ケ月で、突き崩す事が出來ると各方面に語つて居た。

（4）右の如き狀勢の下に、會社が挑戰的態度判然たるに依り、組合員は遂に我慢し切れなくなつたのである。